

会報臨時号

2017年11月10日
宮城県東松島市にて

「東日本大震災被災地植樹事業」
「みんなで造る海岸林再生プロジェクト」
赤井南小の児童とクロマツ 1000 本を植樹



海岸林再生へ 東松島・赤井南小児童ら、クロマツの苗1000本植樹 「津波から守って」

11/11(土) 17:31配信



東日本大震災で大きな被害を受けた東松島市大曲浜で10日、石巻地区森林組合が企画した「みんなで造る海岸林再生プロジェクト」が始動した。



被災した大曲浜の海岸で、クロマツを植える赤井南小の5年生

防災機能を果たす海岸林としてクロマツを植える取り組みで、この日は東松島市赤井南小5年生ら約140人が1000本を植樹した。他に、埼玉県越谷市のロータリークラブ（RC）＝越谷、越谷南、越谷北、越谷東、越谷中＝の会員たちも参加した。

植樹に先立ち、石巻地区森組の佐藤健児組合長が「震災の津波で県内の海岸林は壊滅的な被害を受けた。海岸林を再生し、失われた機能を取り戻すことが被災地の復興につながる」とあいさつした。

担当者から植え方の説明を受けた後、盛り土して基盤整備が終了した2000平方メートルの土地に、虫に強く枯れにくい抵抗性クロマツの苗木を植樹した。そばに赤井南小5年渋谷ほのかさん（10）は「クロマツがいっぱい成長して、将来この町を津波から守ってほしい」と話した。

プロジェクトは来年度も同規模で実施する予定。

県によると、震災で被害を受けた東松島市の海岸防災林は250ヘクタール（国有林含む）に及ぶ。県は2014年度に植樹活動を開始し、本年度から企業や団体、NPO法人による植樹活動が本格化している。

県は20年度の植樹完了を目指す。現在はまだ全体の1割程度（国有林除く）という。

